

## 19 三條西実隆像紙形

一紙。縦四一・二cm、横二五・八cm。紙本墨画。  
室町時代の公卿三條西実隆（一四五五〜一五三七）を描いた土佐光信の紙形（肖像画の下絵）。  
三條西家伝来の、正親町三條公秀の日記の部類記「槐御抄」に挟み込まれていた。史料編纂所が所蔵する重要文化財の『実隆公記』文亀元（一五〇二）年十月四日条に、当代一の絵師土佐光信が実隆邸を訪れ、北野天神縁起絵の製作に

ついて相談し、その折、自分の肖像の紙形を描かせたと記される。料紙左下に「辛酉 十四」とあるのが日記と一致する。「十分に似ず、比興（興ざめ）なり」との感想も日記に書かれている。〔参考〕谷信一「実隆像の紙形」『美術史』一七、一九五五。黒田日出男「奇跡的に残った肖像画」『UP』三五〇、二〇〇一。



19 三條西実隆像紙形（土佐光信筆）